

公共施設適正配置に関する市民ワークショップ

第2回 を開催しました

前月号よりお知らせしています『公共施設適正配置に関する市民ワークショップ』の第2回目は、みなさんの身近な施設である「体育館」と、「地域で課題となっている施設」をテーマとして設け、参加者のみなさんに議論していただきましたので、その概要をお知らせします。

◇体育館について

全体の方向性（案）【概要】	市民のみなさんから寄せられた主な意見
<ul style="list-style-type: none"> ◆市域を超えた大会等を開催できる体育館を「基幹体育館」として市内に複数箇所配置するほか、各地域（旧町村ごと）に1箇所、市民の生涯スポーツ活動の拠点となる体育館を配置。 ◆現在各地域に配置されている小規模な体育館等は、大規模改修が必要となった段階で、原則廃止。 ◆学校の適正規模・適正配置の状況を見据え、学校体育館の地域開放により、小規模な体育館機能を補う。 ◆健康づくりや競技力向上などに寄与する施策の展開と、効率的かつ効果的な運営のため、民間活力を活かした運営手法の導入を検討。 ◆施設を利用する人と利用しない人との公平性に鑑み、受益者負担の適正化について検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市民の体育振興につながるよう、ソフトの充実が必要。 ●学校のあり方の検討と併せて体育館を考えるべき。 ●避難所として指定されている体育館もあり、調整が必要。 ●特定の団体による施設の占有は如何なものか。 ●施設を廃止した場合、利用団体の調整は可能か。 ●指定管理を導入し、事業の充実を図る。 ●（北部にも）プールを備えた施設があると良い。 ●基幹型体育館を整備し、ミニ体育館の機能を代替施設に移す。 ●白鳥の拠点体育館を早急に検討すべき。文化ホールと拠点体育館を併せた施設はどうか。 ●利用料金の適正化が必要。 ●ミニ体育館を自治会へ譲渡されても維持できない。

◇地域で課題となっている施設について

各地域において課題となっている施設については、8月4日（土）開催の「公共施設適正配置に関する市民説明会」に参加されたみなさんのご意見や、各振興事務所からの意見を踏まえ選定しました。

◆八幡地域：郡上八幡サイクリングターミナル（保養施設）

施設の概要 現状と課題	鉄筋コンクリート造2階建て（築年数39年 旧耐震基準）。年間約3,800人の宿泊と9,000人に食事提供。宿泊料金は安価。	
市の評価と 方向性(案)	民間と競合する宿泊施設は、原則民間への譲渡を進める方針。このため、本施設も譲渡を検討。ただし、老朽化が進んでおり、譲渡が不可能な場合は当面継続。市が一定の関与をしながら使い切るとともに、新たな投資が必要となった場合に施設の廃止も検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●市が経営するには難しい。民間への譲渡は妥当。 ●学生の部活やクラブ活動の合宿所としては最適。 ●市民と市民以外の使用料金を差別化してはどうか。 ●子どものための自然体験教室を行ってはどうか。 	

◆大和地域：大和生きがいセンター（保育・子育て支援施設）

施設の概要 現状と課題	鉄筋コンクリート造1階建て（築年数36年 新耐震基準）。これまでにホール、トイレ、内装等を改修済み。民間団体「バンビの森」が子育て支援事業を展開。月平均480人が利用。	
市の評価と 方向性(案)	大和地域の未就園児の遊び場、その保護者の子育て支援の場として必要な機能。ただし、今後施設の老朽化が予想されるため、地域内の他施設への機能移転を検討。その後の施設は普通財産として民間への貸し付けを検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●小さな子どもが過ごす施設ならば環境整備が必要。 ●借楽園や学校のあり方と一緒に検討。 ●地域の施設を総合的に考えるべき。 ●機能と目的をしっかりと考えて移転すべき。 	

◆白鳥地域：白鳥保健センター（保健施設）

施設の概要 現状と課題	鉄筋コンクリート造2階建て（築年数36年 新耐震基準）。設備等の故障が多発。母子保健事業を中心に実施。保健センターとしての機能だけでは施設全体を活かしきれない。	
市の評価と 方向性(案)	地域における健診や相談事業は、他施設の活用を検討しつつ当面継続し、将来的な保健センター機能のあり方について検討。施設は、躯体、設備ともに老朽化が進んでいるため廃止し、立地している土地も借地であることから、廃止後は早期の除却を検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●施設は廃止。他の施設で保健事業は実施可能。 ●プライバシーに配慮した部屋が必要。 ●市民の健康拠点として残す必要がある。 	

◆高鷲地域：高鷲福祉交流センター（障がい者支援施設）

施設の概要 現状と課題	鉄筋コンクリート造1階建て（築年数45年 旧耐震基準）。旧高鷲保育園の建物を転用。就労継続支援B型事業、ボランティアルーム、サポートママ、放課後児童クラブなどを含む複合施設。	
市の評価と 方向性(案)	耐震上の不安とともに老朽化が著しく、施設としては廃止。現在の機能は継続が必要なため、地域内の施設の適正配置の中で、それぞれの機能の移転先を検討。ただし、就労継続支援B型事業は、民間でも実施しており自立経営が可能。このため、原則として公共施設以外の建物で実施できるよう、市の支援施策を含めて検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●現施設と同条件が整う場所が他にあるのか。 ●新築してでも残す価値のある活動をしている。 ●小学校、福祉施設等を集約した、高効率・高耐久の建物を建築。 ●今後最も発展が必要な機能が集約。判断はあり得ない。 	

◆美並地域：郡上市役所美並庁舎（庁舎等）

施設の概要 現状と課題	鉄筋コンクリート造3階建て（築年数44年 旧耐震基準 診断の結果耐震性能なし）。市の支所機能のほか、商工会出張所機能がある。職員数の減少により余剰スペースが生じている。	
市の評価と 方向性(案)	地域防災と地域振興の拠点として、支所機能は継続。施設は、耐震化、建替、さつき苑への移転の3つの手法でライフサイクルコスト（建物の建設から解体までにかかる費用の総額）を算出・比較し、最も効率的な手法を検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●現在の規模は必要ない。コンパクトに建て替えてはどうか。 ●交通、職員配置と併せて検討する必要がある。 ●金融機関や病院などに近い現在の場所が良い。 ●さつき苑は行きにくい。 	

◆明宝地域：明宝歴史民俗資料館（文化施設）

施設の概要 現状と課題	木造2階建て（築年数81年 旧耐震基準）。旧小学校の木造校舎を改築。施設そのものが市指定の重要文化財。建物内には国の重要有形民俗文化財を含む文化財等を多数収蔵。年間来館者は年々減少しており、年間約1,000人前後。	
市の評価と 方向性(案)	文化財を保存する機能は継続するとともに、展示・活用の方は市全体の博物館のあり方の中で検討。市重文である現在の建物は、文化財であることと収蔵庫機能とを分けて考え、方向性を検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●保存してある国重文は市の歴史資料館で保管すべき。 ●展示物が多すぎる。同種のもので展示してある。 ●当時の生活の一部を再現し、交流体験スペースとして活用。 ●小学校が統廃合となった場合、収蔵庫として活用する。 	

◆和良地域：和良町民センター（生涯学習施設）

施設の概要 現状と課題	鉄筋コンクリート造3階建て（築年数39年 旧耐震基準 診断の結果耐震性能あり）。基準値未満だがアスベストが存在。大会議室と公民館、図書館機能を備えた生涯学習施設。また、体育館機能も複合している。	
市の評価と 方向性(案)	和良地域における生涯学習機能は継続。ただし、施設は老朽化が著しく、基準値内であるがアスベストも散見されるため廃止し、体育館機能は郡上東中学校へ統合。図書館機能、公民館機能は地域内の施設の適正配置の中で、複合化を検討。	
ワークショップ での意見	<ul style="list-style-type: none"> ●図書館の機能移転先は、歴史資料館、小中学校、保健福祉センターが考えられる。 ●会議室機能は、庁舎や保健福祉センターの活用が考えられる。 ●大会議室機能は、歴史資料館を増改築し確保してはどうか。 ●料理教室は、保健福祉センターの調理室を活用。 	

現在、各地域において「小中学校」を対象に、第3回ワークショップを開催しています。今後は、「学校の適正規模・適正配置」と、「小中学校の地域活用」について、市民のみならずから寄せられたご意見をお知らせします。

◆公共施設の適正配置に関するお問合せ
市長公室企画課 TEL 67-1831